

2019. 6. 7

畑 啓之

姫路藩家老・河合寸翁の2つめの事業は加古川北部での水利事業であった

昨日は、河合道臣（隼之助、寸翁）の手がけた最初の事業が高砂港の整備（次ページの表参照）であったと記した。本日は2つ目の仕事、「1814年、国包村に亀堰を築き始める」についてである。

その詳細は、加古川市史に詳しいが、加古川市史においても、この事業と河合道臣との関係については触れられていない。ただし、姫路藩の事業としてなされたとの記載はあるので、姫路藩家老・河合道臣の支援の下に行った事業である。

Webで「着工から200年目の亀の井用水を歩く」と検索すると、次の記事が現れる。

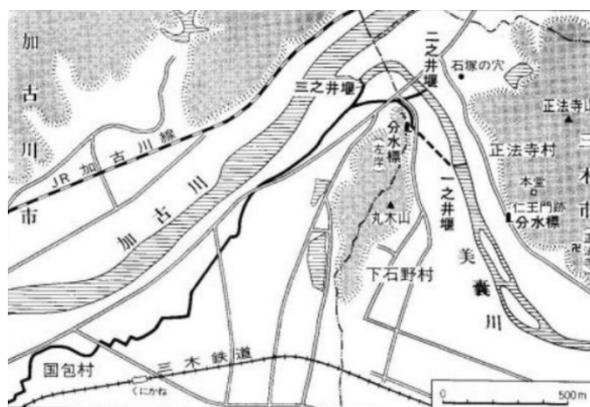
兵庫県加古川市国包（くにかね）は加古川の流れと湯ノ山街道が交差する物流の要衝で、江戸時代から明治時代にかけて繁栄を誇ってきた。その一方で、田畑が加古川の川面よりも高くに位置したため水利が悪く、こと農業に関しては条件が良いとは言えなかった。

村を豊かにするため、田畑に水を引く用水造りに有志が立ち上がった。ちょうど200年前である。文化13年（1816）に国包村の畑平左衛門（応親）が願主となって、畑源右衛門・畑伝右衛門（国列）・高橋源右衛門および都染村の大工藤蔵が、大規模な用水路の開削を計画した。

この普請ははじめ3年計画であったが、なにしろ新井溝の開削であるため、格別に費用や人足がかかり、年数も長くなって8年目の文政7年（1824）に完成をみた。

これによって国包・船町・宗佐の三ヵ村で50町歩の田地に水が入るようになり、畑の水田化が進んだ。天保年間（1830-44）に松林や藪地も開拓、水田となり井掛り地は70町歩に及んだ。

この開削は姫路藩の御入用普請（費用が藩の負担で行われる工事）で行われた。



上荘町国包（Wikipedia）

古代から加古川の水害に悩まされてきた。鎌倉時代まで、加古川西岸に存在していたが、1225年(嘉禄元年)8月の大水害により元の集落は、河原となり、住人は東岸に移動した。

1756年(宝暦6年)当地出身の長浜屋新六郎が、私財をなげうって、水害時の避難所として築山を築いた。湯山街道の宿場町として栄え、1594年(文禄3年)の加古川の舟運が開発されると木材、酒、米の集約地として栄えた。

沿革

1225年(嘉禄元年)加古川の大水害により、集落が河原となる。加古川東岸へ移住する。

1756年(宝暦6年)長浜屋新六郎が水害時の避難所として築山を築く。

1816年(文化20年)亀井堰が完成する。これにより国包村の水利が改善し、石高が増大する。

右の表は、その書籍「姫路藩の名家老 河合寸翁 藩政改革と人材育成にかけた生涯」(熊田かよこ、2015年)よりの抜粋である。

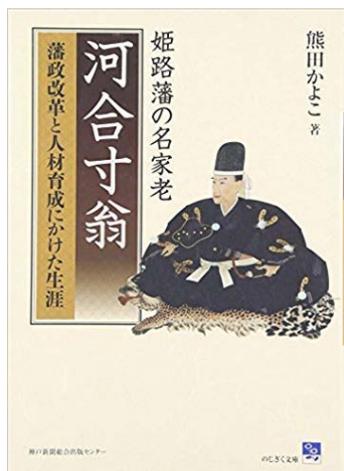


表2 河合集之助の藩政改革中に成った開発

和暦	西暦	新田・新浜・港	城主
文化7	1810	高砂港を開く	工藤松右衛門
文化11	1814	印南郡国包村に亀塚を築き始める	
文政元	1818	本場村、宇佐崎村の新浜見分見積書を提出させる	伊保崎村庄屋中村五郎右衛門
文政2	1819	本場村新浜普請に着手、高砂新田開発、本場村新浜堀田開発	
文政3	1820	12月本場村に無利息五カ年賦銀649匁7分2厘を貸付 御所江方蔵新田190町歩の普請始まる	
文政4	1821	龍山付近の水利をひらく	
文政7	1824	本場村新港成上掘場普請 費用66貫90匁	
文政8	1825	阿成村御新田(先代庄助の開発したそのさきへ)	
文政10	1827	本場川口波止普請、海堤を継村まで、仁寿山下に達する予定	
文政11	1828	的形村新堀堀田開発着手	
天保元	1830	下中島の新開地60町歩相牛新田成る	
天保2	1831	伊保崎村加茂山龍ヶ森新築工事着手	
天保3	1832	大堀村天保浜堀田23町歩着手 加古郡新野辺村新新田70町歩(金沢新田)開発に着手 天保8年完成、入用銀854貫85匁5分	山本久左衛門 伊保崎村庄屋九郎兵衛 高砂船頭新屋兵衛
天保4	1833	伊保崎村新築成る 379間 1200兩	伊保崎村金沢九郎兵衛 高砂船頭新屋兵衛
天保7	1836	新堀堀田76町歩の開発着手 天保10年完成	伊保崎村新堀堀田兵衛
天保9	1838	美賀組河原新田11町歩開発 今在家村西瀬谷新田21町歩開発 御坊新田松原村万代新開16町6反 常盤新開9町歩 岩本新開4町歩 八木新開9町6反 大森新田40町歩着手 妻鹿村太平新田80町歩開発	美賀組大庄屋河野四郎右衛門等 印南郡船頭村瀬屋利 岩本惣右衛門カ 下中島村大森源三 太物屋山本佐一郎 平福屋井上現右衛門
天保10	1839		

天保6年(1835)退職したが、卒するまでを記した(河合寸翁伝より)